

# 長崎大水害35年パネル展

「35年前を忘れない ～長崎大水害の教訓を未来へ～」

今年は、1982年(昭和57年)7月23日の長崎大水害から、35年になります。

長崎大水害は、梅雨末期の未曾有の豪雨により、土砂災害や河川氾濫が同時におき、死者・行方不明者が299名を数えるなど、長崎市中心部等に壊滅的な被害をもたらしました。このときに観測された1時間187mmという雨量は、今でも日本記録となっています。

このパネル展は、長崎大水害の経験を風化させず、その教訓を未来へ伝えることをめざしています。このため、悲惨な被害の状況、長年の復旧・復興状況、そして、東日本大震災等もふまえて、私たちが取り組むべき今後の備えについてお伝えします。

大規模な災害は「必ず起こる」ということを再認識し、日頃からどう備えたら良いかを考える場になればと、心から願っています。



〈被災直後の眼鏡橋の様子〉

## 長崎大水害の全体像

— 未曾有の豪雨により、各地で同時多発した災害 —

## 復旧と復興の歩み

— 懸命の復旧作業と、復興構想をふまえた着実な施設整備 —

## 災害をめぐる近年の大きな変化

— 災害や社会経済情勢の変化 —

## 大災害の教訓と今後の備え

— 災害から学んだ教訓と、今後の備えの提案 —

# 長崎大水害の全体像

## 未曾有の豪雨により、各地で同時多発した災害



惨状の第一報を伝える被災翌日の長崎新聞

提供：  
長崎新聞社

■ 長崎大水害は、夕刻から夜半の集中豪雨によって発生しました。

■ 斜面が多い長崎市などでは、豪雨が一気に斜面を流れ、がけ崩れや土石流による土砂災害や、河川の氾濫による市街地での都市型水害が同時に多発したのです。

## 日本記録となった猛烈な雨

- ◆ 未曾有の豪雨の状況とその原因についてふり返ります。

## 土砂災害の状況と原因

- ◆ 多くの尊い命を奪った土砂災害。その悲惨な状況を原因とともに考察します。

## 河川災害の状況と原因

- ◆ 河川のはるかに超えた洪水によって、甚大な人的、経済的な被害を生じました。その惨状と原因をお伝えします。

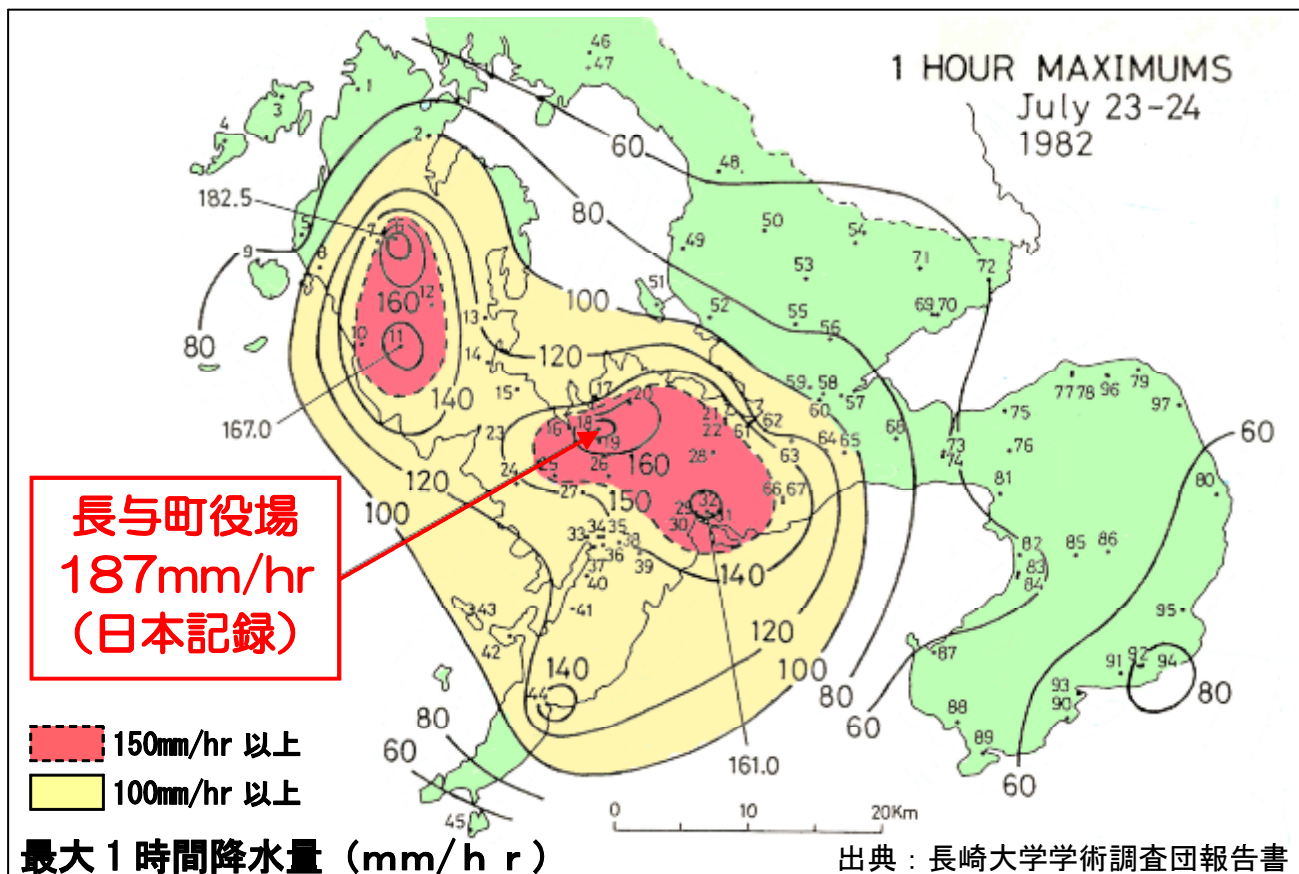
## 道路・都市災害と備えの不足

- ◆ 道路・都市施設や通信の被害状況と、これに伴う行政等の初動対応や住民の危機意識などの課題を考察します。

# 日本記録となった猛烈な雨

## 未曾有の豪雨の状況

長崎大水害では、長崎市北部の長与町役場で、午後 7 時からの 1 時間に 187mm もの猛烈な雨を観測しました。この降水量は、35 年たった今でも日本記録となっています。



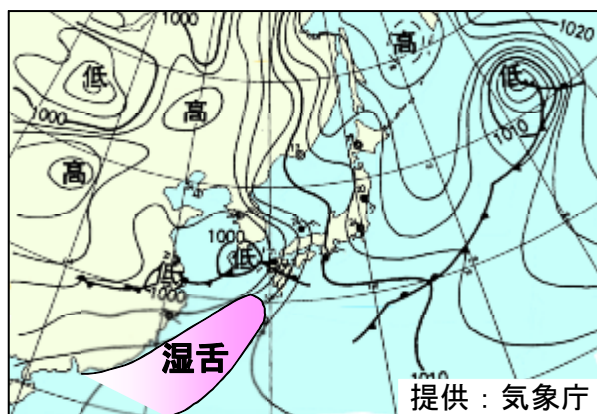
最大 1 時間雨量を示す等雨量線図。長崎市を中心に、100mm を越える猛烈な豪雨が各地で降りました。このような豪雨が集中して降り続いたことが、長崎大水害の直接の原因とされています。(※)

〈参考資料〉(※)1982 長崎豪雨災害報告書

## 豪雨をもたらした湿舌現象

長崎地方上空に停滞した梅雨前線に、南方海上からの暖かく湿った気流、いわゆる湿舌(※)が加わったことで、歴史的な豪雨がもたらされました。

(※) 湿舌とは、梅雨前線帯などに見られる高度 3 km 付近の舌状にのびた湿潤な領域のことです。(気象庁HP)



1982(昭和 57)年 7 月 23 日 21 時の地上天気図

# 土砂災害の状況と原因

## 一瞬で命を奪う土砂災害

長崎大水害は、死者・行方不明者 299 名もの甚大な被害をもたらしました。このうち 8 割以上の方々が、各地で多発した土砂災害により亡くなられています。



1 地区で最悪の 37 名の方が犠牲となられた川平地区の土石流災害（浦上川水系）。自衛隊・警察・消防等による死者・行方不明者の捜索は難航し、約 3 ヶ月続けられました。（※1）崖崩れや土石流など土砂災害が発生した箇所は、県内で 4,457 箇所にものぼりました。（※2）

## 甚大な土砂災害が多発した原因

甚大な土砂災害が各地で多発した主な原因としては、次の 2 点が指摘されています。（※2）

- 大水害当日の豪雨に先行して、7 月 20 日までの大雨で地盤が緩んでいたこと。
- 特に長崎市は、多くの住宅が斜面地に立地しているため、近郊の密集した住宅地で被害が多発する恐れがあったこと。



斜面地の住宅  
（1978（昭和 53）年）  
提供：有限会社 春光社

〈参考資料〉（※1）7.23 長崎大水害の記録

（※2）吉川知弘：土砂災害と対策 ハード面とソフト面、自然災害科学 22-2（2003）

# 河川災害の状況と原因

## 河川のはるかに超えた洪水被害

記録的な豪雨に伴う洪水により、各地で護岸等が被災し、死者・行方不明者等の人的被害に加えて、中島川、浦上川及び八郎川等の氾濫による甚大な経済的被害を生じました。



中島川の氾濫により一部流出した国指定重要文化財の眼鏡橋。  
この眼鏡橋の被災は、中島川の復興事業に重要な課題をなげかけることになりました。

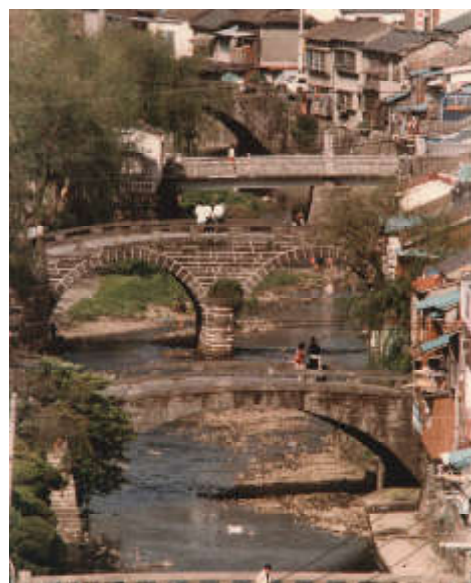
## 河川災害の原因

河川災害については、次の2つの原因があげられます。(※)

- 例えば、中島川では大規模な水害が約190年間なかったため、河川改修の機運が低く、河川の抜本的な改修が不十分であったこと。
- 都市化の進展により、降った雨が一気に河川へ流出する割合を高め、水害の危険性が高まっていたこと。

〈参考資料〉

(※) 清水政治：都市水害対策、自然災害科学 22-2 (2003)



被災前の中島川石橋群

提供：

日本リアリズム写真集団長崎支部

# 道路・都市災害と備えの不足

## 各地で寸断された道路・都市施設

交通機能については、大動脈である国道 34 号が芒塚付近で大規模崩落するなど、主要道路が寸断されました。

また、都市のライフラインである上・下水道、電力、ガスが各地で寸断し、電話も各地で不通となりました。



国道 34 号 (芒塚付近) の大規模崩落の状況

提供：国土交通省長崎河川国道事務所

## 行政等の初動対応と住民の危機意識の不足

道路の寸断や電話の輻輳は、行政等の初動対応を難しくし、避難勧告や指示が遅れ、住民の早めの避難につながりませんでした。

また、避難の呼びかけに対して、実際に避難した方は、全体の 27.3%。住民の危機意識にも課題が残されました。(※)



被災車両等による道路の寸断の状況。道路の寸断で、緊急車両等が通行できず、初動を困難にしました。

〈参考資料〉(※) 1982 長崎豪雨災害報告書

# 復旧と復興の歩み

## 懸命の復旧と、復興構想に基づく着実な施設整備

- 土砂災害等の被災現場で懸命の復旧作業が行われるなか、復興に向けて「長崎防災都市構想」が策定されました。
- この構想をふまえて、眼鏡橋の現地保存のための河川・ダム事業等が実施されるなど、施設の整備水準が向上しました。



28年の歳月を経て完成した中島川

## 土砂災害からの復旧・復興

- ◆ 激甚な被災箇所の復旧や、緊急対策を行いました。その後も施設整備を推進し、ソフト面の対応にも着手しました。

## 長崎防災都市構想と眼鏡橋の保存

- ◆ 構想に基づき、中島川では上流ダム群の治水ダム化やバイパス水路の導入により、眼鏡橋の現地保存を実現しました。

## 道路・都市基盤の復旧・復興

- ◆ 寸断された主要道路や、上・下水道などのライフラインの復旧も次々に行われ、基盤施設の整備が進みました。

## ソフト対策等の実施

- ◆ 防災情報の提供や、ダム情報基盤の整備、土砂法に基づく警戒区域等の指定等が推進されており、また、県民参加の地域での取組みも進められています。

# 土砂災害からの復旧・復興

## 激甚災害の復旧と緊急対策の実施

膨大な数にのぼった土砂災害の現場では、特に激甚災害に指定された箇所への災害復旧工事や、甚大な二次災害の恐れがある箇所の緊急対策を行いました。

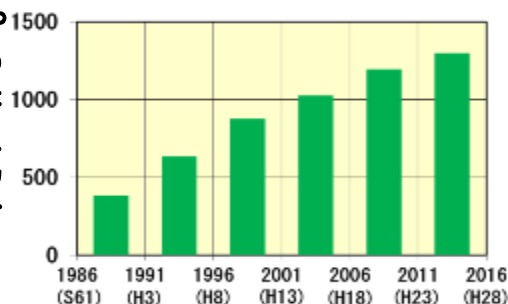


日見峠芒塚川付近の国道 34 号の改良と砂防事業の完成 (1986(昭和 61)年度)

## 施設整備の推進とソフト面の対応

大水害以降、県内全域の土砂災害危険箇所において事業を展開し、1986(昭和 61)年度以降、2016(平成 28)年度末までに、1,299 箇所着手してきました。

しかし、危険箇所は膨大な数にのぼるため、危険箇所の公表や土砂災害警戒情報の発表、土砂災害防止法に基づく区域指定など、ソフト対策を取り入れた総合的な土砂災害対策も行っています。



砂防関係事業の着手箇所数

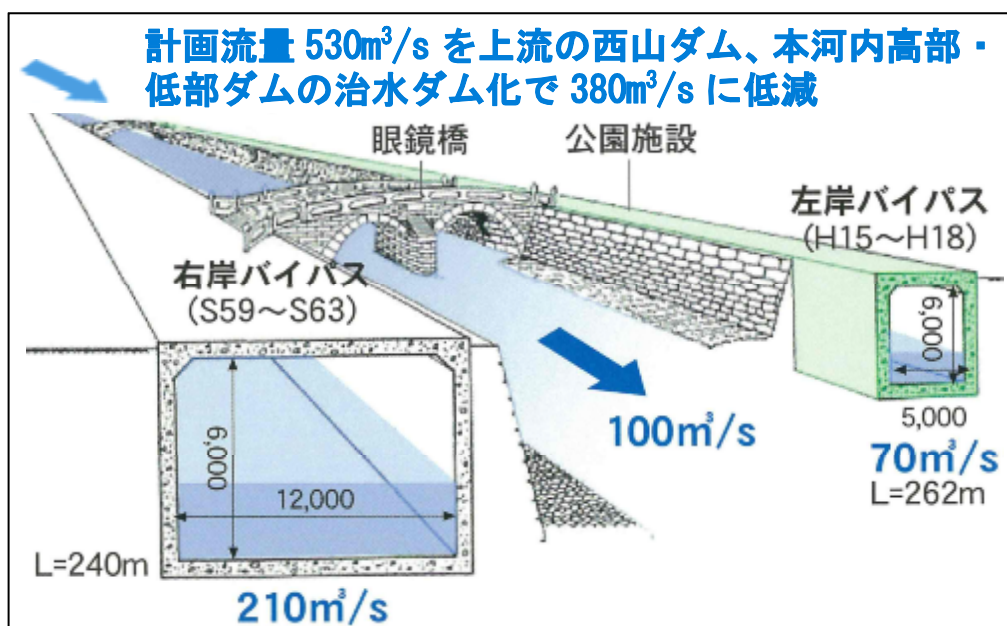


# 長崎防災都市構想と眼鏡橋の保存

## 長崎防災都市構想の概要

各地の被災現場で復旧工事が進められる中、「長崎防災都市構想」が策定されました。中島川では、水道専用ダムの治水ダム化による洪水調節と、河川改修におけるバイパス水路の導入により、眼鏡橋の現地保存を図ることとしました。

一部流出した国指定の重要文化財、眼鏡橋をぜひ現地保存したい、との機運が市民の方々の間で高まりました。そこで、市民の代表を加えた長崎防災都市構想策定委員会において、当時としては先進的な総合治水対策の構想を取りまとめました。



眼鏡橋地点における計画流量の模式図。計画流量  $530\text{m}^3/\text{s}$  を様々な施設により  $100\text{m}^3/\text{s}$  に低減して、河川の水を安全に流しています。

## 中島川関連の復興事業の概成

中島川では、バイパス水路や中央橋の完成、上流のダム群の概成など、大水害から30年を経て、復興事業がほぼ完了しました。



中島川の洪水を調節する本河内低部ダムの完成 (2011(平成23)年度)



中島川バイパス水路の完成 (2006(平成18)年度)

# 道路・都市基盤の復旧・復興

## 基盤施設の復旧

国道 34 号の日見地区が約 4 週間後の 8 月 20 日に通行再開するなど、寸断された主要道路や、上・下水道などのライフラインも次々と復旧しました。(※1)



国道 34 号(日見地区)における、8 月 20 日の開通に向けた復旧状況

提供：国土交通省  
長崎河川国道事務所

## 道路の多重化、施設の耐震化等の進展

長崎自動車道の延伸や女神大橋、浦上川線など道路の多重化や、施設の耐震化など、災害に強い基盤整備を計画的に進めています。



2005 (平成 17) 年 12 月に完成した女神大橋

# ソフト対策等の実施

## 防災関係情報の提供

長崎大水害以降、防災行政無線の導入などの取組みが行われました。その後、長崎県河川砂防情報システム（ナックス）による水位・雨量等の情報提供や、土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定等を実施しています。



ナックスによる雨量・水位等の情報提供。地域の防災活動や自主的な警戒・避難の活動を支援します。ナックスは、長崎県のホームページで見ることができます。



地デジ放送の画面に表示される気象・防災情報。最近では、気象情報の細分化や、リアルタイム化が進み、多くの方が地デジ放送で気象・防災情報を活用できるようになっています。

## 地域での取組みの実施

大水害による被災をうけて、自主防災組織の結成や、避難施設の指定などの取組みが行われています。さらに、地域住民との協働による事業の実施や、県民参加の地域づくり活動団体が増加するなど、地域での取組みも進められています。



中島川での清掃活動。このような川や道の愛護活動などの様々な取組みが、各地で進められています。

# 災害をめぐる近年の大きな変化

## 災害や社会経済情勢の変化

- 近年、災害は大規模化・多様化し、少子高齢化等に伴う地域社会の弱体化など、社会経済情勢も大きく変化しています。



台風12号によって崩れた土砂による河道閉塞 提供：国土交通省近畿地方整備局  
(奈良県五條市大塔町 赤谷、2011(平成23)年9月13日撮影)

## 東日本大震災の発生

- ◆ 未曾有の大災害となった東日本大震災の地震・津波による壊滅的な被害の状況を、あらためてふり返ります。

## 頻発する豪雨災害

- ◆ 近年の気象や雨の降り方の変化に伴い、各地で豪雨災害が頻発しています。

## 社会経済情勢の変化

- ◆ 災害の変化と同様に、社会経済情勢も大きく変化しており、災害リスクが高まりつつあります。

# 東日本大震災の発生

## 大津波による壊滅的な被害

2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災は、観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震により、波高10mを超える大津波が発生し、東北地方沿岸部に壊滅的な被害を与えました。



大津波により壊滅した陸前高田市

撮影：アジア航測（2011(平成23)年3月14日撮影）

## 未曾有の地震・津波による被害

未曾有の大災害により、死者約15,800名、行方不明者約3,000名、被災住家棟数は全・半壊合わせて約39万棟にもものぼりました。（平成24年5月30日時点）



宮城県気仙沼市における懸命の救助活動 提供：東京消防庁

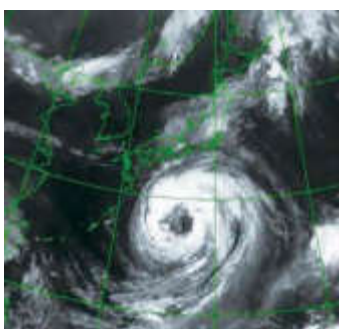
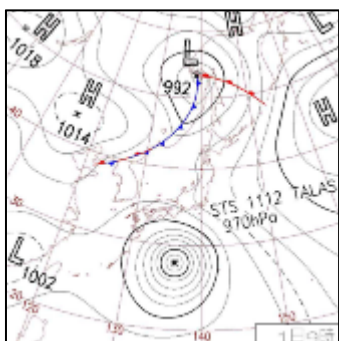


被災した気仙沼市内の建物  
提供：原道泰氏(長与町在住)

# 頻発する豪雨災害

## 各地で頻発する豪雨災害

ここ数年、各地で豪雨災害が頻発しています。2011年（平成23年）には、8月末～9月初めの台風12号により、紀伊半島を中心に激甚な大災害が発生しています。



台風12号がもたらした豪雨による河川氾濫（三重県紀宝町）  
提供：国土交通省近畿地方整備局

2011年9月1日午前9時の天気図(上)と気象衛星画像(下) 提供：気象庁  
台風12号は動きが遅く、広い範囲に豪雨をもたらしました。

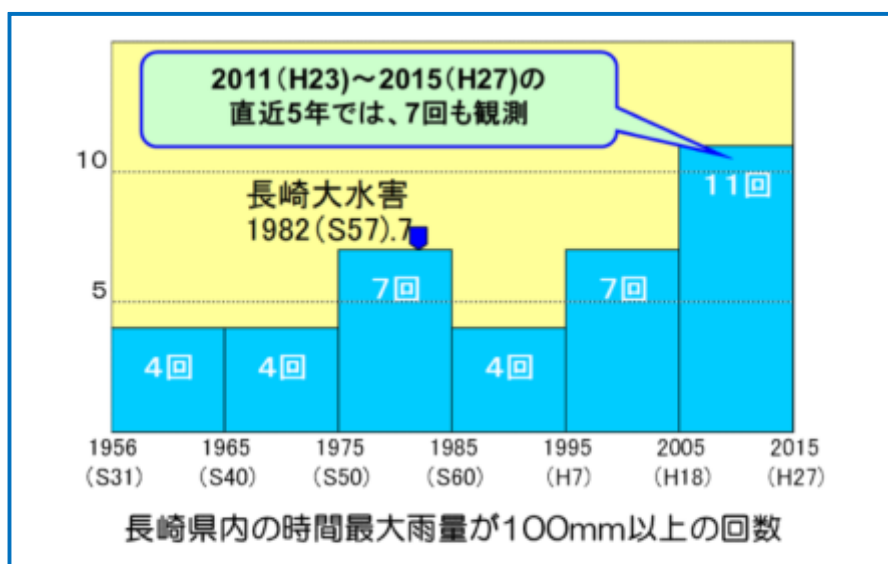
## 災害の大規模化・多様化

近年、短時間降水量の増加に伴い、災害は大規模化しています。また、車の災害や地下街の浸水など、災害の多様化も進んでいます。

近年増加傾向にある時間最大雨量 100mm 以上の降雨回数。

これは、地球温暖化の影響等が考えられ、豪雨に伴う河川水位の急上昇や、高潮の頻発も懸念されます。

加えて、長崎県は、1957年7月25日の諫早大水害でも、当時の日本記録となった日降水1,109mmを瑞穂町西郷（現雲仙市）で観測するなど、豪雨が発生しやすい特性があります。



# 社会経済情勢の変化

## 地域社会の弱体化

近年の少子高齢化と人口減少の進行に伴い、地域社会の弱体化が進み、災害リスクを高める要因となっています。

長崎県の自主防災組織率も、全国の中で低迷しています。



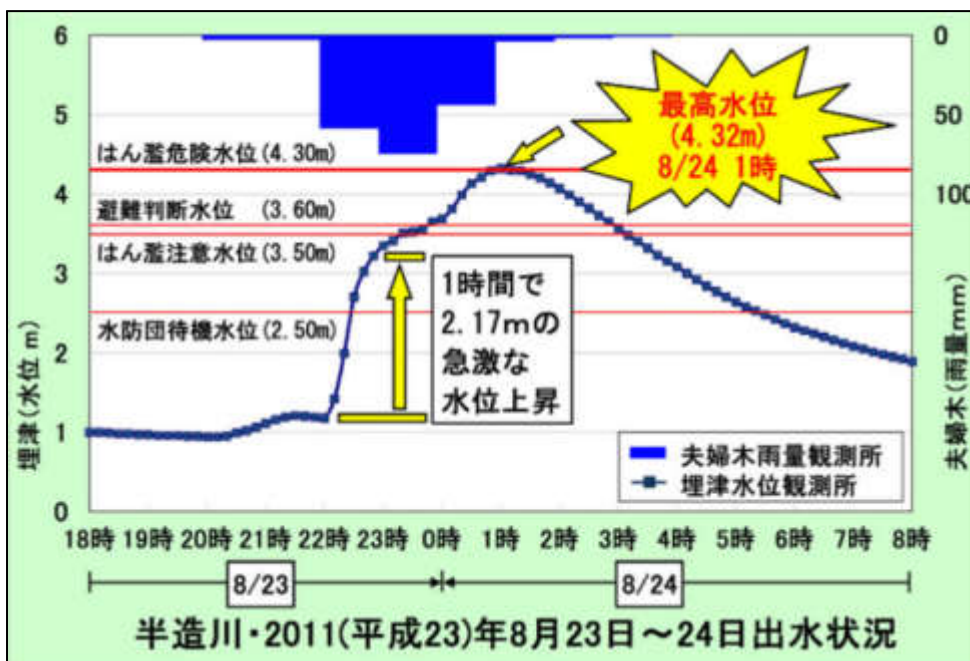
一人で食事をする高齢者の方。(NHK「無縁社会」より)  
高齢者の方を地域でどのように支えていくかも、今後ますます重要となっています。



低い水準にある  
長崎県の自主防災組織率  
(順位は、平成27年 消防白書)

## 厳しい財政状況と「公助」の限界

厳しい財政状況のもと、限られた予算で、大災害に備えた万全な施設の整備を行うには限界があります。このため、全ての人への確実な防災情報の伝達などが課題となっています。



本明川水系半造川における2011(平成23)年8月23日～24日の豪雨による急激な水位上昇。

県内の河川は中小河川のため、短時間で水位が急上昇する特性があります。このため、豪雨の状況によっては、行政の情報伝達が難しくなる可能性があります。

資料提供：  
国土交通省  
長崎河川国道事務所

# 大災害の教訓と今後の備え

## 災害から学んだ教訓と、今後の備えの提案

- 施設整備などのハード対策と防災情報の提供を含むソフト対策を組み合わせ、被害の最小化を図る「減災」の考え方が必要です。

- 「自助」「共助」「公助」のバランスや地域のつながりの重要性を再認識し、自然災害等に強い県土づくりと防災意識の向上を図る取組みについて提案します。



中学生による  
地域防災  
マップづくり  
(東長崎地区)



地域住民による清掃活動（中島川）

## 長崎大水害の教訓

- ◆ 大災害の経験・記憶はすぐに忘れ去られること、大災害の対応の困難さを再確認します。

## 頻発する大災害からの教訓

- ◆ 自然の猛威に対して、「減災」の考え方に基づく対策が必要です。

## 備え1：危機意識と地域のつながり

- ◆ 大災害に備えて、私たち一人ひとりが問われている自然との関係や危機意識を見つめ直し、地域のつながりの重要性を再確認します。

## 備え2：「自助」「共助」と地域活動

- ◆ 地域のつながりから生まれる「自助」「共助」と、これらを育む地域活動の展開について提案します。

## 備え3：「自助」「共助」を支える「公助」

- ◆ 地域を守るハード対策や、危険箇所の共有、防災学習の支援等のソフト対策など、「自助」「共助」を支える「公助」の方向性を示します。



# 長崎大水害の教訓

## 大災害の経験・記憶はすぐに忘れ去られる

長崎大水害の原因は、未曾有の豪雨に加えて、大災害に対する様々な備えや私たちの危機意識の不足がありました。

こうした大災害の経験や記憶は、すぐに忘れ去られるという認識が必要です。



被災した眼鏡橋と袋橋（手前）

## 同時多発的な災害対応の困難さ

長崎大水害では、各地で同時に多発した災害への対応は困難を極めました。このため、災害に備えて、施設整備などハード対策とともに、様々なソフト対策を推進することが必要です。



伊良林小学校付近の道路の被災

各地で頻発した土砂災害（八郎川水系・清水川）

# 頻発する大災害からの教訓

## 想像を超える自然の猛威

2011年(平成23年)の東日本大震災、紀伊半島を襲った台風12号などは、想像をはるかに超える自然の猛威をふるいました。



堤防を乗り越えて町に押し寄せる津波。提供：宮古市（岩手県）  
普段、私たちに恵みをもたらす自然のもう一つの姿を突きつけられました。

## 「減災」の考え方に基づく対策

大規模な災害に対して被害の最小化を図る「減災」の考え方にに基づき、施設整備等のハード対策と、防災情報の提供や防災学習の充実などソフト対策を組み合わせる必要があります。



東日本大震災の当日、一緒に避難する  
釜石東中学校生徒と鵜住居小学校の児童たち。

撮影：鵜住居地区の住民

写真使用許可：釜石市立釜石東中学校

# 備え1：危機意識と地域のつながり

## 一人ひとりが問われる危機意識

長崎大水害をはじめとして、想定を超える大災害は起こりうること、そして常日頃から備える必要性を痛感させられます。このような今こそ、自然との関係を見つめなおし、普段から危機意識を持つ重要性を再認識する必要があります。

### 居安思危（こあんしき）

居安思危 思則有備 有備無患

安きに居りて危きを思う  
思えばすなわち備えあり  
備えあれば患い無し

出典：「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」 左丘明の作と伝えられる春秋：孔子の編集の史書。前480年頃の編集と伝えられる年代記

第30回「土砂災害防止『全国の集い』」のテーマ  
「居安思危（安きに居りて危うきを思う）」

『全国の集い』は、長崎大水害の翌年となる1983（昭和58）年に長崎市で第1回が開催され、2012（平成24）年6月に第30回を再び長崎市で開催しました。

## 地域のつながりと連携の重要性の再確認

大災害に備えて、「自助」「共助」「公助」のバランスの取れた地域防災力の向上が必要です。そのためには、地域における多様なつながりと連携が、特に重要であることを再確認することが大切です。

阪神・淡路大震災で生き埋めになった方のうち、8割近くの方が地域の方々に助けられました。

警察・消防・自衛隊によって掘り出された人

約8,000人

市民によって掘り出された人

約27,000人



「自助」「共助」「公助」のバランス

〈参考資料〉平成15年度 防災白書

# 備え2：「自助」「共助」と地域活動

## 地域のつながりから生まれる「自助」と「共助」

地域防災力で重要となる「自助」と「共助」。そのために、「“地域のつながりの大切さ”という方向性だけが分かっている、そこに向けて今、知恵と実践を積み重ねていく段階だということ」(※)を念頭に、今後、それぞれの地域の取組みを進めることが大切になってきます。



〈引用〉

(※) 第2回地域づくり担い手育成講座  
田上富久長崎市長講演

「東日本大震災にみる地域住民のつながり」  
(2011(平成23)年7月30日)

自治会での餅つき大会を通じたふれあいの場  
提供：つつじが丘自治会（長崎市内）

## 「自助」と「共助」を育む地域活動の実践

自治会活動の活性化や、地域におけるボランティア活動など、「自助」「共助」を育む主体的な地域活動をそれぞれの地域で日頃から実践し、それを行政も支援していくことが重要です。



地域の課を話し合うワークショップ後の交流会のようす  
(2012(平成24)年4月22日) 提供：扇町住宅自治会(長崎市内)



学生サークルを含む複数の  
団体が連携した幅広い世代  
による清掃活動の集合写真  
(浦上川、2011(平成23)年  
5月15日)

提供：ながさきホテルの会

# 備え3：「自助」「共助」を支える「公助」

## 地域を守るハード対策の充実

「公助」の限界を認識し、縦割りとされる行政間の連携に努めつつ、的確な施設の整備・管理・更新を通じたハード対策を進めます。

また、災害支援協定の実効性を確保し、災害時の応急対策等により被害を最小限に食い止めます。

災害支援協定に基づく建設業協会による応急対策  
(針尾川(大村市内)、平成21年度)



## 防災学習の支援などソフト対策の推進

大災害に備えて、避難の目安となる防災情報の提供、危険箇所の共有を図る防災マップづくりの支援、危機意識を育み自然との関わりを見つめなおす防災学習や自然体験活動の支援、地域コミュニティの活性化の支援など、「自助」「共助」を支えるソフト対策・ひとづくりを積極的に進めます。



地域防災マップづくりの支援 提供：長崎市  
(西山台自治会、2011(平成23)年11月26日)



住民参加型の各種訓練を取り入れた長崎市総合防災訓練  
(2012(平成24)年5月23日)



長崎県環境アドバイザー制度を活用した「川での安全な遊び方」  
のようす (現川川(長崎市内)、2011(平成23)年7月17日)

# ☆未来へのメッセージ☆

各地域で水辺での自然体験活動などに取り組んでいる団体の方々が集い、長崎大水害30年「未来へのメッセージ」ワークショップを6/19(火)に行った結果をご紹介します☆

## 大災害から学んだこと、感じたこと

### 自然の怖さ

- ・ 悲しい、恐ろしい体験
- ・ 生命と向かい合う心
- ・ 一瞬にして命や財産を失う
- ・ 自然の力には勝てない
- ・ 人間は自然に対してほとんど無力

### 想定外

- ・ 想定外のことが起こる
- ・ 安全に「これでよし!」は無い
- ・ 原発(放射線・能の)恐ろしさ

### つながりの大切さ

- ・ 絆、つながり(人は一人では生きられない)
- ・ いざとなれば人間は助けあう

### 今の私たち「自助」の問題

- ・ 災害は突然起こる
- ・ 日頃の油断
- ・ 危ないことへの意識の低さ
- ・ 人間は忘れたがる

### 災害発生時「公助」の問題

- ・ 災害時は公助はあてにならない
- ・ 実際に避難した人が少ないことが問題
- ・ 情報が伝わらない
- ・ 情報不足で状況を把握できない
- ・ 自分に何が出来るか、わからなかった

### いざ!!! 災害が起きたら

- ・ 感じたこと、判断力の大切さ(避難勧告を受身に待ってたらあぶない)
- ・ 1~2時間先の危険を予測
- ・ 情報を早く集める
- ・ 正しい情報
- ・ 自分の一瞬の判断がカギ

### 忘れないこと! 被災地支援

- ・ 忘れない努力
- ・ 事実を語り継ぎ、風化させないこと
- ・ 長崎県は、3つの大災害(諫早・長崎・雲仙)の先駆県
- ・ 被災地の支援・応援を続けなければいけない

### 前もって!!!

#### 日常の備え

- ・ 備品と心の準備
- ・ 危機意識
- ・ 近所付き合い、考え方を考える
- ・ 避難場所・ルートを確認
- ・ 非常袋を購入
- ・ 懐中電灯を準備
- ・ 地下にはいかない
- ・ もしもの時の事を考え、日頃から行動
- ・ 災害パターンをいくつも予測するべき
- ・ もっとニュースを見る
- ・ 情報を鵜呑みにせず、疑問をもつ

#### 地域のつながり

- ・ 自治会活動へ積極的に参加
- ・ 独居老人への声掛け
- ・ 家族・友人など今より連絡を取る

#### 教育

- ・ 防災教育の必要性。(“知らない”現実)
- ・ 災害を知らない世代に伝えていく
- ・ “もしも”の時のための学習

#### 復旧・復興

- ・ ごみ処理が大変
- ・ 復旧の時こそ、チャンス
- ・ 自然と共生すべき
- ・ 常に持続可能な利用、自然との共生を考える



# 地域での取組みを進めていく上でのメッセージ

## 活動で大切にしていること！

### 想い

- ・変わらぬ願い、想い

### 自然を知る

- ・自然を知る
- ・小さな危険を体験する

### 人を育てる

- ・防災は「人」。「人」を育てる

### 人間性・信頼関係

- ・ひとりひとりを思いやる
- ・あいさつ、声かけ
- ・人の話や意見をよく聞く

### 一人ではなく、みんな

- ・一人ではそう出来ない
- ・それぞれの持っている能力で、支え合う
- ・小さなことからコツコツする

## すべてに共通すること！

### 夢を持つ

- ・将来のビジョンや目的意識を共有
- ・みんなの力を信じ、思いを共有する

### 楽しむ！

- ・楽しんでやる
- ・違ったことを1つやってみようという気持ちでのぞむ

## 継続するコツ・ひけつ

### 無理のない活動とする！

- ・できることをやる！！
- ・無理せず、できる範囲で活動する
- ・強制はしない
- ・我慢・焦らない
- ・急がない・押し付けない
- ・達成感を持つ
- ・計画の反省を十分に行う
- ・活動しやすい雰囲気

### 地域のつながりを大切にする！

- ・地域の人・関わる人のご縁を大事にしたい
- ・つながりを持つ
- ・一緒にいる人を理解する
- ・行政が手を出しすぎない（地域が弱くなるので）

### 仲間づくり・連携

- ・周りの人に声をかけて仲間を増やす
- ・楽しい集まりの回数を増やす
- ・学校や自治会との連携
- ・子どもといっしょに
- ・子どもを中心におく
- ・いろいろなバージョンの避難訓練をする

### 情報の共有

- ・定期的に情報の共有
- ・やっていることを発信する
- ・もしもの時の備えを、もっとアピールする（マスコミにも要請）



## こうしたら、という提案

- ・人間至上主義でない広い視点・価値観を次世代へ
- ・まずは“自分”から！！
- ・夢・目標を行事の一つに組みこむ
- ・お年寄りの話を聞く
- ・地域の人達と常に手をつなぎうる体制
- ・異分野との交流
- ・持続可能かを考える

## 参加いただいた活動団体

三和町ふるさとづくり委員会

森川里海塾

現川川をきれいにしよう会

ながさきホテルの会

川まな in 浦上川・大橋地区

川まな in 浦上川・川平地区

長崎新聞社

グリーンバード長崎チーム

長崎 科大ISOの家

長崎大学エコマジック

ながさきエコネットコア会議

皆さん、有難うございました！！